

---

# 泉

Holzbein

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

泉

### 【コード】

N8184R

### 【作者名】

Holzbein

### 【あらすじ】

泉らしいって何なのでしょう？

深い山の奥に泉がありました。  
小さな小さな泉がありました。

澄んだ綺麗な泉がありました。

泉はさびしそうに水面をゆらします。

だってだれも飲んでもくれないのだから。

だってだれも浴びてくれないのだから。

ただただ地に染みゆくだけなのだから。

どうしてなのと問いかけても、辺りの木々は葉を揺らすばかりです。

わたしって何のためにいるのかなあとやっぱり水面をゆらします。

そんな日々が続いていました。

あるさびしい夜のことでした。

満月の光が泉を照らしています。幻想的な光景でした。

でもだれもいませんから、何の意味もありません。

そう泉は思っておりません。けれどこの日は違いました。

風もないのに、さざなみが起きたのです。わずかに地面が揺れたせいです。

と、暗がりにも一つの姿が浮かび上がりました。

泉はそれをじっくりと眺めます。

泉は自分を遠巻きにする動物たちを見たことはありませんが、猿にそっくりとはいえ、それは初めてみる動物でした。そして赤っぽい身体でふらふらしています。だから、ひよっとしたら飲んでくれるのかしら浴びてくれるのかしらと泉はわくわくしていました。

そうして念願通り、それは手で水を掬いました。震える手を口へと近づけていき、とうとう流し込みます。こくと喉を鳴らしました。そうして、それはどぼんと泉に倒れこみました。びくりともしませ

ん。

泉は喜びました。だってようやく泉らしいことができたのですから。はやく水浴びしてほしいなあとうきつきしながら、泉はじわりじわりとあかく染められていくのでした。

澄んだ泉はもつどこにもありません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8184r/>

---

泉

2011年10月8日03時10分発行